

ぱあとなあ北海道会員の後見人等受任・終了に関するガイドライン

ぱあとなあ北海道運営委員会 平成 24 年 4 月 21 日制定
平成 27 年 7 月 25 日一部改正
平成 29 年 7 月 22 日一部改正

目 的

このガイドラインは、公益社団法人北海道社会福祉士会権利擁護センター「ぱあとなあ北海道」（以下、「ぱあとなあ北海道」という。）運営規程（以下、「運営規程」という）第 14 条に定めた合議体において協議するぱあとなあ北海道会員（以下、「ぱあとなあ会員」という。）への後見人等受任推薦の事項、さらに、「ぱあとなあ北海道」ぱあとなあ名簿登録規程（以下、「名簿登録規程」という。）第 4 条 3 項・第 5 条 3 項に定めた後任の検討についての事項、ぱあとなあ北海道会員としての責務について詳細を明文化したものである。

本ガイドラインは各地区支部において、合議体が、ぱあとなあ北海道会員の、後見人等の受任案件について合議する際、さらに、後見人等を辞任しなければならない事案に適用されるものとする。

1 合議体の運営について

(1) 運営規程第 14 条第 2 項の解釈について（合議体の設置について）

運営規程によれば、地区支部内の会員の総意で合議体構成員を選出することとしている。

(2) 合議体の構成員について

ぱあとなあ北海道地区支部運営委員（以下、「地区支部運営委員」という）は、各地区支部役員、事務局と協議し、運営規程第 14 条を踏まえながら、地区支部の実情に応じて支部全体会で合議体の構成員を選出する。

構成員の任期、選任の考え方、構成員の役割分担については、会員の専門活動領域、経験年数等、地区支部の実情に応じて、各地区支部ぱあとなあ会員およびその他の会員に理にかなった説明をするものとする。

(3) 合議体内の運営（合議方法等）について

各地区の実情に応じて、効率的な方法により合議するものとする。なお、どのような方法によるにせよ、合議に際しては個人情報の管理に細心の注意を払うものとする。

○推薦依頼時の基本の流れ

別紙フローチャート参照

2 受任の可否について

(1) 受任可否の判断について

① 関係機関等から受任要請依頼があった地区支部は、合議体において受任の可否について判断する。

(2) 受任可否の判断の考え方

合議体での合議にあたっては、社会福祉士(会)が受任する事に適している案件かどうか、以下の項目を目安に留意して受任可否を判断する。

① 被後見人居住地との地理的距離

- ② 申立者から出されている後見人等候補者に対する希望（性別、年齢等）
- ③ 受任件数
- ④ 受任経験年数
- ⑤ 利益相反関係の有無
- ⑥ 報酬の有無
- ⑦ 報酬が見込めない場合、成年後見制度利用支援事業が申請できるかどうか。
- ⑧ 多額の多重債務や複雑な法律問題があり、受任の過重な負担が予想されないか。
- ⑨ 被後見人等へのケア体制（バックアップ体制）の有無。（受任予定者等へ多問題を丸投げ状態にする様相がないか等）
- ⑩ その他

*地区支部独自の考え方がある場合は、それらを付記する。

例：名簿登録した順番に受任させていく。

（3）地区支部合議体での受任可と判断した後の動きについて

- ① 地区支部運営委員は、ばあとなあ名簿登録者から受任予定者を選定し、家庭裁判所に推薦する。

なお、合議体において最終的に受任可とした案件であっても、不安要素が濃い案件等は、事前に内容を付記し、ばあとなあ北海道事務局に報告する。

- ② ①の報告を受けた事務局は、担当理事にすみやかに報告する。報告を受けた担当理事は受任内容をすみやかに確認する。

ただし、この報告内容中に（2）の考え方に照らして潜在的なリスク等が含まれていると判断したときは、

- i 適切なリスク対応が講じられているか、
- ii 今後リスク改善に向けた方針があるのかどうか

の確認を行う。

（4）地区支部合議体において受任可否の判断がつかない場合の動き

地区支部合議体において、（2）の考え方に照らして受任可否の判断が付かない場合は、以下の流れに沿うこととする。

- ① ばあとなあ北海道事務局へすみやかに報告する。
- ② ばあとなあ北海道事務局から担当理事へ報告する。
- ③ 担当理事での協議を行い可否の判断をする。

3 ばあとなあ北海道の受任後の流れについて

（1）新規受任時の報告

新規受任したばあとなあ会員は、家裁へ初回事務報告後、ばあとなあ北海道へ新規報告（初回）を審判確定後1ヶ月以内に提出する。

提出先は地区支部運営委員とする。

（2）地区支部運営委員の対応

（1）の報告を受けた地区支部運営委員は、1か月ごと、翌月10日までに随時、定められたエクセルシートに記入し、ばあとなあ北海道事務局に報告する。原本は運営委員が保管し、四半期ごと翌月10日までに、ばあとなあ北海道事務局に回付する。別紙フローチャート参照

4 終了時の流れについて

(1) 終了時の報告

ぱあとなあ会員は終了事項発生に伴い、家裁への終了報告完了後すみやかに地区支部運営委員に終了報告書を提出する。

(2) 地区支部運営委員の対応

地区支部運営委員は提出された報告書を確認し、提出月の翌月 10 日までに、ぱあとなあ北海道事務局に定められたエクセルシートに記入し報告。原本は地区支部運営委員が保管し、四半期ごと翌月 10 日までに、ぱあとなあ北海道事務局に回付する。別紙フローチャート参照

(3) 終了の基本的な考え方

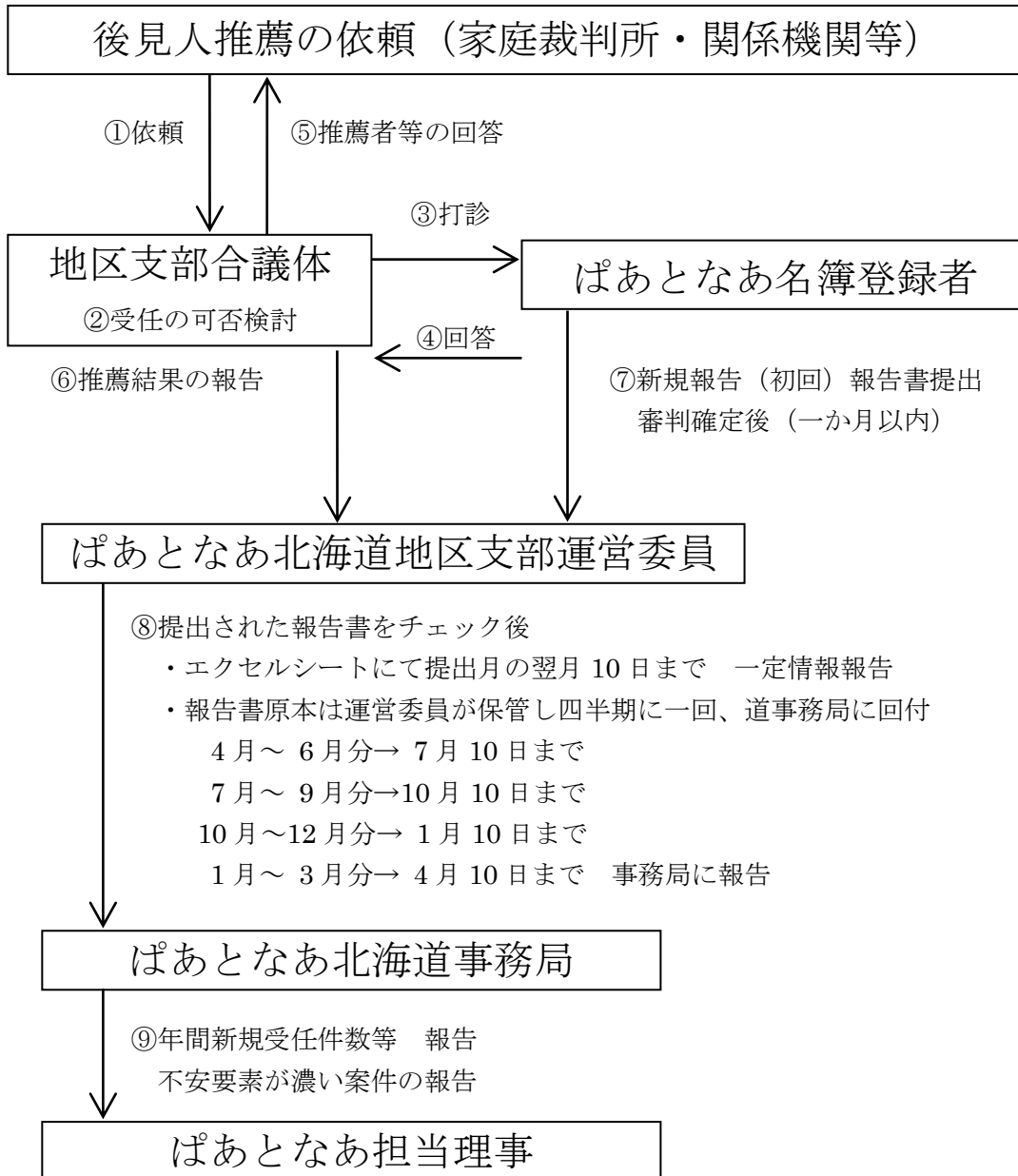
正当な理由なく受任中の辞任は認められない。但し、民法上の辞任事由並びに公益社団法人北海道社会福祉士会会員の入会及び退会に関する規則第 4 条による場合は、この限りでない。

(4) 辞任の手続きについて

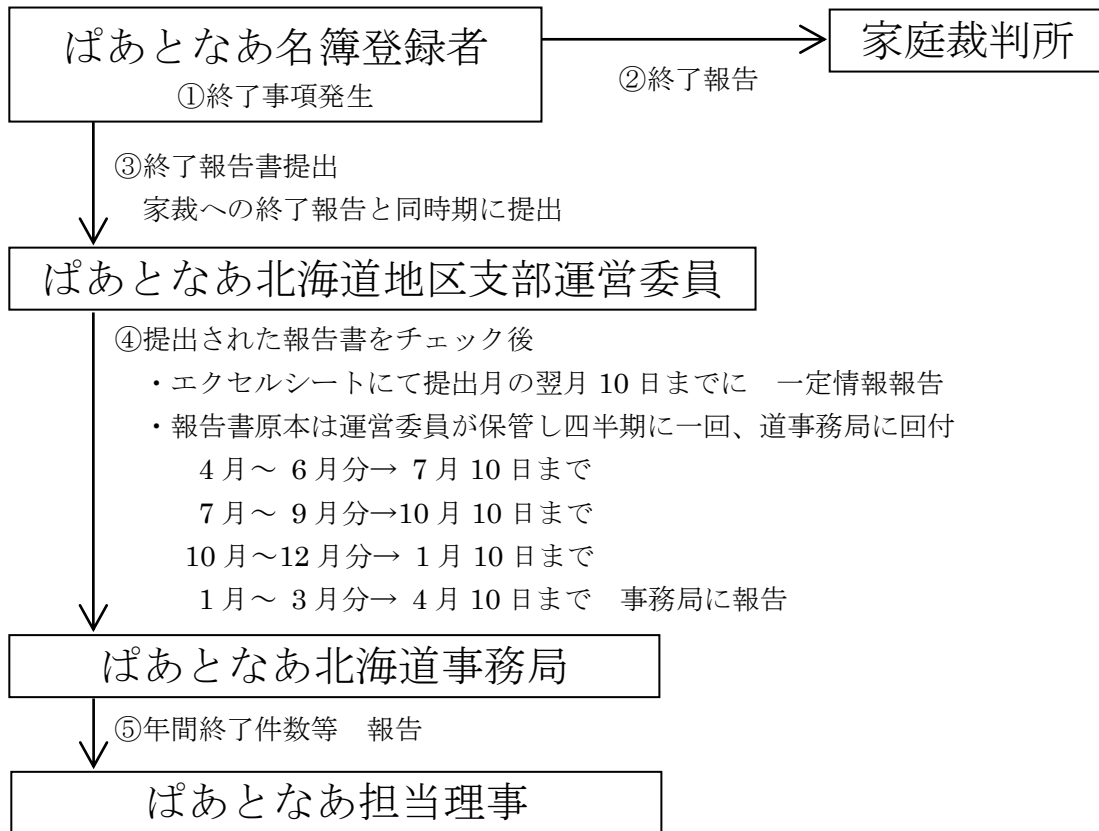
名簿登録規程第 4 条 1 項に該当する場合は次のとおりとする。

- ① すみやかに所属する地区支部運営委員に申し出る。
- ② 地区支部運営委員はぱあとなあ北海道事務局・ぱあとなあ北海道運営委員会に報告し、辞任を希望する後見人等と協議に入る。
- ③ 協議により後見人等と運営委員の役割を分担し次の事務を遂行する。
 - ・ 家裁への連絡
 - ・ 合議体の開催(後任の選任にあたり、後見人等は合議体に情報提供を行う)
 - ・ 後任者との引き継ぎ
- ④ 事務の引き継ぎにあたり、前任者は後任者に情報の提供を行いスムーズな後見事務の移行に努める。
- ⑤ 辞任・選任手続きに係る諸費用は前任者が自費で負担する。
- ⑥ 前任者は後任者へ案件が移行したら、ぱあとなあ北海道事務局に報告する。
- ⑦ 辞任理由が名簿登録規程第 4 号 1 項の場合、ぱあとなあ北海道事務局に抹消申請を提出する。

○推薦時の基本の流れ



○終了時の流れ



ぱあとなあ北海道会員として特に留意すべき事項について

ぱあとなあ北海道運営委員会
平成24年4月21日制定
平成27年7月25日一部改正
平成29年7月22日一部改正

日本社会福祉士会権利擁護センターぱあとなあが定める「権利擁護センターぱあとなあに関する規則」第7条第1号、権利擁護センター「ぱあとなあ北海道」運営規程第7条、権利擁護センター「ぱあとなあ北海道」ぱあとなあ名簿登録規程第8条各号を念頭に置き、ぱあとなあ北海道会員として特に配慮すべき事項を以下のとおりとする。

なお、以下の事項は、一部を除き、「ぱあとなあに関する規則」及び「名簿登録規程」等に明文化されている事項もある。

しかし一方で、ぱあとなあ北海道内の受任会員および名簿登録者会員の増加に伴い、ぱあとなあ会員として留意すべき基本的ルール、姿勢が薄らいでいる問題が浮上している。

そこで、ぱあとなあ北海道として、ぱあとなあ会員全員が留意すべき事項を改めて定め以下に掲げ、受任者および名簿登録者への継続的なフォローアップ、会員間の資質向上を図るものとする。

(1) 受任に関する事項について

<受任している会員共通の責務>

- ① 年1回の定期活動報告書の提出
- ② 必要に応じてのインシデントレポートの提出
- ③ 新規報告・終了報告書の提出

<受任、未受任会員共通の責務>

- ① 年1回の定期活動報告書の提出
- ② 移行型任意後見契約に関する一連の「ぱあとなあ報告」書類の提出
- ③ 各地区支部において主催するフォローアップ研修、事例検討会等へ参加
ぱあとなあ会員は名簿登録後も継続的に資質向上を図るため、各地区支部で実施されている研修会等には可能な限り出席するものとする。